

施工上のご注意（共通事項）

一般的なビニル壁紙における施工要領をまとめた共通事項です。

施工難易度が高い商品については、P218から施工注意番号別に商品特性、施工要領を表示しています。

施工難易度の高い商品は施工費が割増しになります。商品特性、施工環境などあらかじめご確認の上、商品選択をお願いします。

1. 施工注意欄の確認

特に注意を必要とする商品には、サンプル帳の品番の下に **施工注意** 1 等を記載しています。サンプル帳のP218・219、別冊資料の施工上のご注意一覧をご一読の上、施工を開始してください。

2. 副資材について

副資材（パテ・シーラー・糊・ボンド・防カビ剤等）は、必ず壁紙施工専用品をご使用ください。専用品以外のものを使用すると、目地スキやフクレを発生させる可能性があります。ご使用の際は、各副資材メーカーの施工要領・取扱注意事項を必ずご確認ください。

3. 商品ラベルの確認

ラベルに記載されている品番・ロット・数量を確認の上、施工を開始してください。同一面上は同ロットで仕上げてください。

4. 三巾ほど施工した時点で状態を確認

商品検査には充分配慮しておりますが、念のため三巾ほど施工した時点で、商品に問題のないことをご確認ください。商品に明らか欠陥が見られる場合には、すぐに施工を中断し当社までご連絡くださいますようお願いいたします。三巾以降の作業が進行した場合、施工費賠償につきましては原則としてお受けいたしかねますのでご了承ください。

下地の調整

1. 下地は乾燥させてから

モルタル等の湿式下地や石膏ボードの石膏系接着剤による直張り工法（GL工法等）及びパテ、シーラーを施した箇所は充分に乾燥させてから施工してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・ハガレ・カビの発生を招くことがあります。

2. 下地の平滑仕上げ

下地は施工後の不陸を防ぐために、平滑に仕上げてください。また、ネジ・クギ類は施工後の変色を避けるため、突起を完全に沈めサビ止めをしてください。

3. モルタル下地、ペンキ下地、木質系下地の注意点

それぞれの下地専用のシーラーで必ず下地処理をしてください。また、ベニヤなどの木質系下地に直接施工した場合、時間が経つとシミや変色の原因となりますので、下地処理（シーラー処理）を充分に行ってください。シーラーは接着不良や変色を防ぎます。

4. 金属下地の注意点

サビ止め及びシーラー処理は必ず行ってください。エチレン酢ビ系のボンドを混入した糊をご使用ください。オープンタイムを長めに取り、充分にエア抜きをして圧着を確実にしてください。フクレの原因になります。重ね切りを行う場合は、下地を切らないよう下敷きテープ等を使用してください。

5. 下地と同色のパテを使用

施工後に下地の色が透けて見えることを防ぐため、パテは下地と同色のものをご使用ください。

6. コーナー材について

コーナー材を使用する場合は、穴あきタイプのプラスチック製のものを使用してください。貼付ける際は、パテを用いて行うか、粘着テープ付きのものをご使用ください。穴あきタイプ以外では施工糊が乾燥せず、壁紙の変色・ハガレ・カビの発生を招くことがあります。ただし、穴あきタイプを使用の場合でも使用環境や施工状況によっては、壁紙の変色・ハガレ・カビが発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

施工糊について

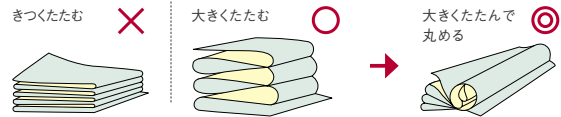
1. 糊メーカーの注意事項を確認

施工糊に関しては、糊メーカーの注意事項を守ってください。塗布量の不足は壁紙のアイハギや接着不良の原因となります。また、下地の種類・状態に合わせて、防カビ剤やエチレン酢ビ系ボンド等を適量添加してください。

2. 糊付け後の注意点

糊付け後、壁紙をきつきたんだり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折れジワが発生する可能性があります。

糊付け後のたたみ方



たたみジワに注意し、重ね置きを可能にするため、一度たたんだものを丸める「丸め置き」をおすすめします。

3. オープンタイムを取る

オープンタイムを取り、壁紙が柔らかくなってから張り出してください。施工を容易にするとともに、フクレの発生を防ぎます。

4. ホルムアルデヒド対策について

建築基準法の規制対象外となる「F☆☆☆☆」表示品をご使用ください。

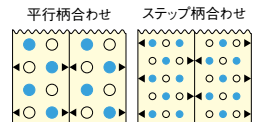
張付けについて

1. 有効巾について

壁紙は必ず有効巾でご使用ください。重ねるは有効巾に含まれません。有効巾を超えた使用や胴継ぎ施工は、色違いの原因となりますので避けてください。

2. 柄合わせについて

柄合わせを要する商品は基本として柄合わせマークを合わせて施工してください。柄合わせの必要な商品は、サンプル帳に「リピート」を表示しています。縦方向は「タテリピート」で柄合わせを行い、横方向は「ヨコリピート」を参考に有効巾で柄合わせしてください。



また、壁紙表面のエンボス（凹凸）形状によって柄合わせの必要な商品は「**エンボス柄合わせ**」と表示しています。エンボス形状を確認し、リピートを合わせて施工してください。また、「ステップ柄合わせ」は一般的な平行柄合わせとは合わせ方が異なりますのでご注意ください。なお、エンボス柄合わせの商品など、一部の商品では柄合わせマークのないものがあります。ご了承ください。

3. ジョイント位置について

ジョイント位置は端部同士で施工してください。両端部と中央部では色差の生じることがあります。また、窓の上下など一部だけをヨコ張りすると色違いの原因となります。必ず同じ方向で施工してください。

4. 石膏ボード下地の注意点

重ね切りを行う場合は、石膏ボードの表層紙まで切込まないようご注意ください。目地スキの原因となります。

5. ローラーがけ等の注意

ジョイント部のローラーがけは、あまり強く押し付けたり、片側だけに力をかけ過ぎないでください。クセが残ったり、傷や光沢の原因となります。なで付け、エア抜きは力を込めず丁寧にタテ方向を基本に行ってください。力を入れて横なですると、乾燥後に目地スキが発生することがあります。

6. 濃色品について

ひっかき傷や糊の拭残しが目立ちやすいので特にご注意ください。糊が付着したままでは、しばらくすると白く目立つことがあります。

養生について

1. 粘着性の強い養生テープは使用しない

粘着性の強いマスキングテープ（養生テープ）の使用は避けてください。また、粘着性の弱いものでも貼付けたまま長時間放置しないでください。粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、テープを剥がすときに壁紙を破損することがあります。

2. 付着した糊や汚れの除去

壁紙の表面や回り縁等に糊や汚れが付かないように注意してください。付着した場合は、きれいな水を含ませた布ですぐに拭取り、最後に乾拭きを行ってください。糊が付着したままで放置するとカビや変色の原因となります。

3. 施工後は自然乾燥を

施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。窓を開けて風通しを良くしたり、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目地スキ、ハガレ等の原因となります。

4. 入居後の換気

施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後の一週間程度は十分に換気を行ってください。（工事終了後、入居者の方にご説明ください）

その他

冬季、寒冷地での施工について

目安として5℃以下では、壁紙がより硬くなり、施工糊の接着力が弱くなるため施工しにくくなります。水分やエアが抜けにくく、フクレや反りなどの施工不良が起こりやすくなりますので、できるだけ室内や材料を温めたうえで、オープンタイムを長めに取って施工してください。